

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2026年9月15日提出
【計算期間】	第7期中(自 2025年12月16日至 2026年6月15日)
【ファンド名】	農林中金＜パートナーズ＞おおぶねＪＡＰＡＮ（日本選抜）
【発行者名】	農林中金バリューストメンツ株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 酒見 直秀
【本店の所在の場所】	東京都千代田区内幸町二丁目２番３号 日比谷国際ビル１４階
【事務連絡者氏名】	阿蘇 興平
【連絡場所】	東京都千代田区内幸町二丁目２番３号 日比谷国際ビル１４階
【電話番号】	03-3580-2050
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【ファンドの運用状況】

【農林中金＜パートナーズ＞おおぶねＪＡＰＡＮ（日本選抜）】

以下の運用状況は2026年 6月30日現在です。
 ・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

（１）【投資状況】

資産の種類	国／地域	時価合計（円）	投資比率（％）
株式	日本	10,122,148,900	97.42
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	—	267,990,565	2.58
合計(純資産総額)		10,390,139,465	100.00

（２）【運用実績】

【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末（2020年12月15日）	1,289	1,292	1.1364	1.1391
第2計算期間末（2021年12月15日）	2,148	2,152	1.2166	1.2189
第3計算期間末（2022年12月15日）	2,989	2,992	1.1841	1.1855
第4計算期間末（2023年12月15日）	5,118	5,130	1.3218	1.3249
第5計算期間末（2024年12月16日）	8,185	8,210	1.5054	1.5099
第6計算期間末（2025年12月15日）	9,137	9,164	1.6271	1.6319
2025年 6月末日	8,734	—	1.5332	—
7月末日	8,916	—	1.5644	—
8月末日	8,827	—	1.5576	—
9月末日	8,928	—	1.5702	—
10月末日	8,937	—	1.5767	—
11月末日	9,105	—	1.6123	—
12月末日	9,114	—	1.6151	—
2026年 1月末日	9,133	—	1.6163	—
2月末日	10,105	—	1.7617	—
3月末日	9,461	—	1.6372	—
4月末日	9,863	—	1.7035	—
5月末日	10,203	—	1.7651	—
6月末日	10,390	—	1.8111	—

【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2019年12月20日～2020年12月15日	0.0027
第2期	2020年12月16日～2021年12月15日	0.0023
第3期	2021年12月16日～2022年12月15日	0.0014
第4期	2022年12月16日～2023年12月15日	0.0031
第5期	2023年12月16日～2024年12月16日	0.0045

第6期	2024年12月17日～2025年12月15日	0.0048
当中間期	2025年12月16日～2026年 6月15日	—

【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2019年12月20日～2020年12月15日	13.91
第2期	2020年12月16日～2021年12月15日	7.26
第3期	2021年12月16日～2022年12月15日	2.56
第4期	2022年12月16日～2023年12月15日	11.89
第5期	2023年12月16日～2024年12月16日	14.23
第6期	2024年12月17日～2025年12月15日	8.40
当中間期	2025年12月16日～2026年 6月15日	9.84

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

2【設定及び解約の実績】

【農林中金＜パートナーズ＞おおぶねＪＡＰＡＮ（日本選抜）】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	2019年12月20日～2020年12月15日	1,155,531,973	20,581,719
第2期	2020年12月16日～2021年12月15日	782,127,652	151,311,427
第3期	2021年12月16日～2022年12月15日	966,369,324	207,728,826
第4期	2022年12月16日～2023年12月15日	1,883,543,837	535,636,164
第5期	2023年12月16日～2024年12月16日	2,467,771,665	902,611,016
第6期	2024年12月17日～2025年12月15日	1,245,497,366	1,066,980,920
当中間期	2025年12月16日～2026年 6月15日	614,152,095	469,048,778

(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第284条及び第307条の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
- なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（2025年12月16日から2026年 6月15日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による中間監査を受けております。

【農林中金＜パートナーズ＞おおぶねＪＡＰＡＮ（日本選抜）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第6期 2025年12月15日現在	当中間計算期間末 2026年 6月15日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	57,244	763,657
コール・ローン	377,460,622	323,476,754
株式	8,891,402,300	9,947,160,450
未収配当金	12,275,750	80,980,200
未収利息	3,619	5,317
流動資産合計	9,281,199,535	10,352,386,378
資産合計	9,281,199,535	10,352,386,378
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	26,956,760	-
未払解約金	36,238,644	11,020,854
未払受託者報酬	2,730,654	1,537,810
未払委託者報酬	72,597,384	40,884,427
その他未払費用	4,884,165	2,429,707
流動負債合計	143,407,607	55,872,798
負債合計	143,407,607	55,872,798
純資産の部		
元本等		
元本	5,615,991,745	5,761,095,062
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	3,521,800,183	4,535,418,518
（分配準備積立金）	1,624,633,564	1,496,822,642
元本等合計	9,137,791,928	10,296,513,580
純資産合計	9,137,791,928	10,296,513,580
負債純資産合計	9,281,199,535	10,352,386,378

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前中間計算期間 自 2024年12月17日 至 2025年 6月16日	当中間計算期間 自 2025年12月16日 至 2026年 6月15日
営業収益		
受取配当金	89,736,450	112,170,520
受取利息	264,801	682,348
有価証券売買等損益	84,854,216	851,554,886
その他収益	122	86
営業収益合計	5,147,157	964,407,840
営業費用		
受託者報酬	1,315,675	1,537,810
委託者報酬	34,978,566	40,884,427
その他費用	2,387,534	2,429,707
営業費用合計	38,681,775	44,851,944
営業利益又は営業損失（ ）	33,534,618	919,555,896
経常利益又は経常損失（ ）	33,534,618	919,555,896
中間純利益又は中間純損失（ ）	33,534,618	919,555,896
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	12,692,194	29,783,990
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	2,748,330,915	3,521,800,183
剰余金増加額又は欠損金減少額	335,374,761	419,023,821
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	335,374,761	419,023,821
剰余金減少額又は欠損金増加額	183,319,773	295,177,392
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	183,319,773	295,177,392
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	2,879,543,479	4,535,418,518

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は移動平均法に基づき、以下の通り原則として時価で評価しております。 (1)金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における中間計算期間末日の最終相場で評価しております。 (2)時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間 当ファンドの中間計算期間は、2025年12月16日から2026年 6月15日までとなっております。

（中間貸借対照表に関する注記）

	第6期 2025年12月15日現在	当中間計算期間末 2026年 6月15日現在
中間計算期間の末日における受益権の総数	5,615,991,745口	5,761,095,062口

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

前中間計算期間 自 2024年12月17日 至 2025年 6月16日	当中間計算期間 自 2025年12月16日 至 2026年 6月15日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

	第6期 2025年12月15日現在	当中間計算期間末 2026年 6月15日現在
中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は原則としてすべて計算期間末日の時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	中間貸借対照表計上額は原則としてすべて中間計算期間末日の時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 同左

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

第6期 2025年12月15日現在	当中間計算期間末 2026年 6月15日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.6271円 (16,271円)
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.7872円 (17,872円)

（その他の注記）

元本の移動

第6期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日	当中間計算期間 自 2025年12月16日 至 2026年 6月15日
期首元本額	5,437,475,299円
期中追加設定元本額	1,245,497,366円
期首元本額	5,615,991,745円
期中追加設定元本額	614,152,095円

第6期 自 2024年12月17日 至 2025年12月15日		当中間計算期間 自 2025年12月16日 至 2026年 6月15日	
期中一部解約元本額		1,066,980,920円	期中一部解約元本額 469,048,778円

4【委託会社等の概況】

（１）【資本金の額】

（2026年6月末現在）

資本金の額	： 444百万円
発行可能株式総数	： 64,000株
発行済株式総数	： 17,297株
最近５年間ににおける主な資本金の増減	： 該当事項はありません。

（２）【事業の内容及び営業の状況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2026年6月末現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです（親投資信託を除きます。）。

ファンドの種類	本数	純資産総額（百万円）
追加型株式投資信託	12	109,359
合計	12	109,359

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しております。

（３）【その他】

（１）定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

（２）訴訟事件その他の重要事項

委託会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される訴訟事件などは発生していません。

5【委託会社等の経理状況】

1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第12期事業年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)				
	第11期 (2025年3月31日)		第12期 (2026年3月31日)	
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	2	1,729,849	2	1,170,591
前払費用		20,432		27,136
未収委託者報酬		209,410		319,034
未収投資助言報酬		421,462		437,023
未収収益		4,812		-
未収消費税		29,281		-
未収還付法人税等		13,015		3
その他	2	75	2	7,916
流動資産合計		2,428,339		1,961,707
固定資産				
有形固定資産				
建物	1	27,156	1	58,388
器具備品	1	23,832	1	39,610
有形固定資産合計		50,989		97,999
無形固定資産				
ソフトウェア		19,157		35,757
ソフトウェア仮勘定		10,367		-
無形固定資産合計		29,525		35,757
投資その他の資産				
子会社株式		-		360,000
長期差入保証金		56,335		79,344
繰延税金資産		27,879		30,240
投資その他の資産合計		84,215		469,585
固定資産合計		164,729		603,342
資産合計		2,593,069		2,565,049

(単位：千円)				
	第11期 (2025年3月31日)		第12期 (2026年3月31日)	
(負債の部)				
流動負債				
預り金		2,165		2,607
未払金	2	22,137	2	45,807
未払費用		1,571		1,775
未払法人税等		5,133		71,151
未払消費税等		11,447		13,121
賞与引当金		65,286		63,003
その他		6		6
流動負債合計		107,747		197,474
負債合計		107,747		197,474
(純資産の部)				
株主資本				
資本金		444,307		444,307
資本剰余金				
資本準備金		444,307		444,307
資本剰余金合計		444,307		444,307
利益剰余金				
その他利益剰余金		1,596,706		1,478,959
繰越利益剰余金		1,596,706		1,478,959
利益剰余金合計		1,596,706		1,478,959

株主資本合計	2,485,321	2,367,574
純資産合計	2,485,321	2,367,574
負債純資産合計	2,593,069	2,565,049

（２）【損益計算書】

（単位：千円）

	第11期 （自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）	第12期 （自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）
営業収益		
委託者報酬	745,598	899,009
投資助言報酬	1,227,427	1,016,490
コンサルティング収入	10,000	-
営業収益合計	1,983,026	1,915,499
営業費用		
支払手数料	251,164	252,237
広告宣伝費	130,377	129,373
調査費	102,630	105,667
情報利用料	101,145	103,962
新聞図書費	861	442
その他の調査費	623	1,263
営業雑経費	24,546	25,109
営業費用合計	508,718	512,387
一般管理費		
給料	492,963	540,839
役員報酬	65,465	61,211
給料・手当	307,586	362,066
賞与	119,911	117,561
法定福利費	60,805	69,959
福利厚生費	1,566	1,636
交際費	2,784	7,098
寄付金	1,000	6,000
旅費交通費	47,821	35,977
租税公課	19,179	9,419
不動産関係費	68,815	77,456
不動産賃借料	65,815	75,660
その他の不動産関係費	2,999	1,795
退職給与	-	6,087
退職給付費用	18,379	20,790
固定資産減価償却費	30,254	24,028
諸経費	51,696	85,232
業務委託費	44,151	73,896
消耗品費	3,524	7,288
その他	4,020	4,047
一般管理費計	795,265	884,526
営業利益	679,042	518,585
営業外収益		
受入手数料	1 -	1 8,471
その他	2,827	3,483
営業外収益合計	2,827	11,955
経常利益	681,869	530,540
税引前当期純利益	681,869	530,540
法人税、住民税及び事業税	186,748	165,329
法人税等調整額	9,814	2,361
法人税等合計	196,563	162,968
当期純利益	485,306	367,572

（３）【株主資本等変動計算書】

第11期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

項目	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金	利益剰余金 合計		
				繰越 利益剰余金			
当期首残高	444,307	444,307	444,307	2,006,814	2,006,814	2,895,429	2,895,429
当期変動額							
剰余金の配当				895,413	895,413	895,413	895,413
当期純利益				485,306	485,306	485,306	485,306
当期変動額合計	-	-	-	410,107	410,107	410,107	410,107
当期末残高	444,307	444,307	444,307	1,596,706	1,596,706	2,485,321	2,485,321

第12期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

（単位：千円）

項目	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金	利益剰余金 合計		
				繰越 利益剰余金			
当期首残高	444,307	444,307	444,307	1,596,706	1,596,706	2,485,321	2,485,321
当期変動額							
剰余金の配当				485,319	485,319	485,319	485,319
当期純利益				367,572	367,572	367,572	367,572
当期変動額合計	-	-	-	117,747	117,747	117,747	117,747
当期末残高	444,307	444,307	444,307	1,478,959	1,478,959	2,367,574	2,367,574

[注記事項]

（重要な会計方針の注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

（1）子会社株式

移動平均法に基づく原価法により行っております。

2. 固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、建物、建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～50年
器具備品 3～15年

（2）無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについて、社内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

3. 引当金の計上基準

賞与引当金

従業員への賞与支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

4. 収益の計上基準

主な収益である、委託者報酬、運用受託報酬および投資助言報酬にかかる管理報酬について、一定期間にわたる契約履行義務の充足状況に応じて収益を認識しております。成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識され、当該報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

（未適用の会計基準等）

・「リースに関する会計基準」（企業会計基準第34号 2024年9月13日 企業会計基準委員会）

・「リースに関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日 企業会計基準委員会）等

（1）概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

(2) 適用予定日
2028年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響
「リースに関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり
ます。

(貸借対照表に関する注記)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	第11期 (2025年3月31日)	第12期 (2026年3月31日)
建物	13,297千円	15,939千円
器具備品	107,778千円	118,307千円

2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	第11期 (2025年3月31日)	第12期 (2026年3月31日)
流動資産		
預金	294,250千円	229,008千円
その他	-千円	7,687千円
流動負債		
未払金	3,875千円	2,312千円

(損益計算書に関する注記)

1 関係会社に対する主な取引

	第11期 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	第12期 (自 2025年4月 1日 至 2026年3月31日)
受入手数料	-千円	8,471千円
支払手数料	-千円	4,942千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

第11期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	17,297	-	-	17,297
合計（株）	17,297	-	-	17,297

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	895,413	51,767.00	2024年3月31日	2024年6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月24日 定時株主総会	普通株式	485,319	利益剰余金	28,058.00	2025年3月31日	2025年6月25日

第12期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	17,297	-	-	17,297
合計（株）	17,297	-	-	17,297

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月24日 定時株主総会	普通株式	485,319	28,058.00	2025年3月31日	2025年6月25日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
----	-------	----------------	-------	-----------------	-----	-------

2026年6月30日 定時株主総会	普通株式	367,561	利益剰余金	21,250.00	2026年3月31日	2026年6月30日
----------------------	------	---------	-------	-----------	------------	------------

（金融商品に関する注記）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については、銀行預金に限定しており、金融機関からの資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクにさらされております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、営業債権について、総務部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手毎に期日及び残高を管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

現金及び預金、未収委託者報酬、未収投資助言報酬、未払金及び未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	第11期 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	第12期 (自 2025年4月 1日 至 2026年3月31日)
子会社株式	-	360,000

（有価証券に関する注記）

1. 子会社株式

子会社株式は、市場価格がないことから、時価及び時価と貸借対照表計上額との差額を記載しておりません。

2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

3. その他有価証券

該当事項はありません。

（退職給付関係）

1. 確定拠出制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、企業型確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度に係る退職給付費用の額

当社の確定拠出制度への要拠出額は、当事業年度8,770千円であります。

（税効果会計に関する注記）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第11期 (2025年3月31日)	第12期 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	19,990千円	19,858千円
未払事業税	1,526千円	4,927千円
長期差入保証金	2,987千円	3,548千円
減価償却超過額	1,944千円	854千円
その他	1,429千円	1,051千円
繰延税金資産合計	27,879千円	30,240千円
繰延税金負債	-	-
繰延税金負債合計	-	-
繰延税金資産の純額	27,879千円	30,240千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第11期 (2025年3月31日)	第12期 (2026年3月31日)
法定実効税率	30.6%	-%
法人税額の特別控除	1.7%	-%
交際費等の損金不算入額	0.3%	-%

その他	0.3%	- %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.8%	- %

（注）第12期は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（資産除去債務に関する注記）

第11期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）及び第12期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

当社は、建物賃貸借契約に基づき使用する建物等において、退去時における原状回復に係る債務を有しております。当該賃貸借契約については、敷金が資産計上されておりますので、「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」第9項及び第15項に基づき、資産除去債務の負債計上及びこれに対応する除去費用の資産計上に代えて、原状回復に係る費用を敷金の回収が見込めない金額として合理的に見積もり、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上しております。

（収益認識に関する注記）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

（単位：千円）

区分	第11期会計期間 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	第12期会計期間 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	588,559	605,782
投資助言報酬	1,121,202	986,568
コンサルティング収入	10,000	-
成功報酬	263,264	323,148
営業収益合計	1,983,026	1,915,499

（注）成功報酬は、損益計算書において委託者報酬および投資助言報酬に含めて表示しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第11期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）及び第12期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第11期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

投資信託委託会社としての投資運用業、投資一任契約及び投資助言契約に係る投資運用業それぞれの営業収益は損益計算書に記載されております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	中国（香港）	アメリカ合衆国	合計
796,741	320,797	119,888	1,237,427

（注）営業収益の地域区分は、契約相手方の所在地を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
MCP Asset Management Company Limited	320,797	投資運用業
農林中金全共連アセットマネジメント株式会社	786,741	投資運用業
Russell Investments Implementation Services, LLC	119,888	投資運用業

（注）営業収益は、投資一任契約による運用受託報酬及び投資助言契約による投資助言報酬を顧客ごとに集計しております。投資信託契約による委託者報酬は、投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

第12期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

投資信託委託会社としての投資運用業、投資一任契約及び投資助言契約に係る投資運用業それぞれの営業収益は損益計算書に記載されております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	中国（香港）	アメリカ合衆国	合計
706,043	202,143	108,303	1,016,490

（注）営業収益の地域区分は、契約相手方の所在地を基礎として分類しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
MCP Asset Management Company Limited	202,143	投資運用業
農林中金全共連アセットマネジメント株式会社	706,043	投資運用業
Russell Investments Implementation Services, LLC	108,303	投資運用業

（注）営業収益は、投資一任契約による運用受託報酬及び投資助言契約による投資助言報酬を顧客ごとに集計しております。投資信託契約による委託者報酬は、投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

（関連当事者との取引に関する注記）

1. 関連当事者との取引

（1）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第11期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

属性	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 （百万円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 （被所有）割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
同一の 親会社を 持つ会社	農林中金全共連ア セットマネジメン ト(株)	東京都 千代田区	1,466	金融業	-	投資助言 取引の 受任等	投資助言 報酬受領	786,741	未収投資 助言報酬	311,277

第12期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

属性	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 （百万円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 （被所有）割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
子会社	オーナーズ クラス(株)	東京都 千代田区	600	金融業	所有 直接60%	株式の取得 等	株式の 取得	360,000	子会社 株式	360,000
同一の 親会社を 持つ会社	農林中金全共連ア セットマネジメン ト(株)	東京都 千代田区	1,466	金融業	-	投資助言 取引の 受任等	投資助言 報酬受領	706,043	未収投資 助言報酬	338,884

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注）1. 関連当事者との価格その他の取引条件について、一般取引条件を勘案し決定しております。
2. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

農林中央金庫（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報に関する注記）

	第11期 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	第12期 (自 2025年4月 1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	143,685円13銭	136,877円76銭
1株当たり当期純利益	28,057円26銭	21,250円62銭

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第11期 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	第12期 (自 2025年4月 1日 至 2026年3月31日)
当期純利益（千円）	485,306	367,572
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	485,306	367,572
普通株式の期中平均株式数（株）	17,297	17,297

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

純資産の部の合計額（千円）	2,485,321	2,367,574
純資産の部の合計額から控除する金額（千円）	-	-
普通株式に係る期末の純資産額（千円）	2,485,321	2,367,574
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数（株）	17,297	17,297

独立監査人の監査報告書

2026年6月30日

農林中金バリューステムツ株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 堀 敦 哉
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている農林中金バリューステムツ株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第12期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、農林中金バリューステムツ株式会社の2026年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見

を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2026年8月28日

農林中金バリューストメンツ株式会社

取締役会御中

有限責任 あずさ監査法人
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 轡田 留美子

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている農林中金<パートナーズ>おおぶね JAPAN（日本選抜）の2025年12月16日から2026年6月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、農林中金<パートナーズ>おおぶね JAPAN（日本選抜）の2026年6月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2025年12月16日から2026年6月15日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、農林中金バリューストメンツ株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

農林中金バリューストメンツ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1．上記の中間監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。